

令和3年度 年間普及活動計画書

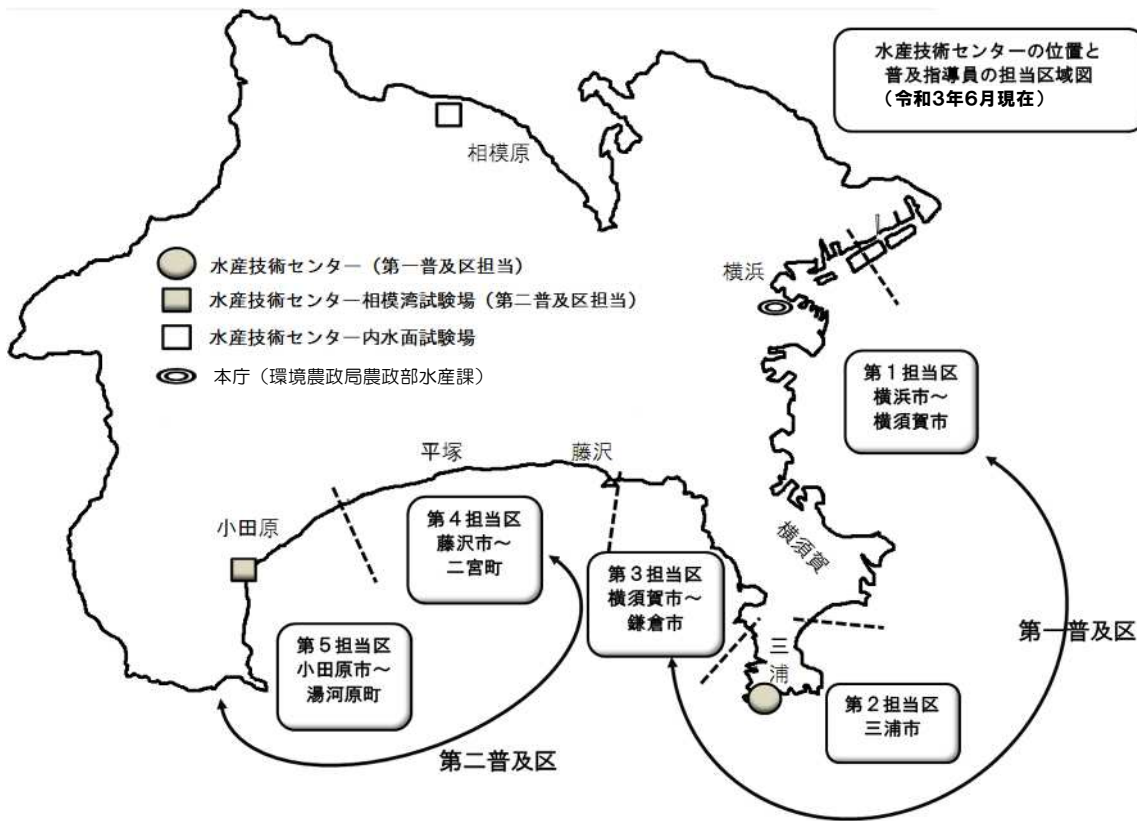
I 水産業改良普及事業実施方針

本県沿岸漁業の生産性の向上、漁業経営の近代化及び漁業生産技術の改良を図るため、沿岸漁業等の就業者に技術及び知識に関する普及指導を行い、その自主的活動を促進するとともに、優れた経営感覚をもつ漁業者を育成して沿岸漁業の振興を図る。

II 年間普及活動計画

普及事業を的確かつ円滑に進めるため、かながわ水産業活性化指針に掲げられた重点的に取り組む施策並びに担当区域ごとの課題を把握し課題解決に向けた普及活動の対象等を検討し、年間普及活動計画を作成する。普及組織が重点的に取り組む施策の5年後、10年後の目標値は、かながわ水産業活性化指針実施計画に記載する。

III 普及区及び担当区



IV 普及活動計画

IV 普及活動計画

普及区	第1普及区第1担当区	担当普及員	長谷川 理
-----	------------	-------	-------

1 管内漁業の概要

地理	横浜市～横須賀市（東京湾側）
漁業協同組合 漁業者数	生麦子安漁業連合組合、横浜東漁協、横浜市漁協、横須賀市東部漁協 577名（令和2年12月）
県域漁業者団体等	神奈川県小型機船底びき網漁業協議会、神奈川県あなご漁業者協議会、 神奈川県漁業士会
主要漁業種類及び対象魚種	小型機船底びき網（タチウオ、スズキ、マアナゴ）、あなご筒（マアナゴ）、 刺網（マコガレイ）、まき網（スズキ、いわし類）、一本釣り（さば類、マ アジ）、たこ壺（マダコ）や海藻養殖（ノリ、ワカメ、コンブ）等が営ま れている。

2 管内漁業の課題と将来ビジョン

管内漁業の課題	<ul style="list-style-type: none"> 東京内湾の貧酸素水塊の発生時期の長期化や有機物の堆積による汚染等によるシャコ、マコガレイやマナマコ資源が減少し、魚類資源（タチウオ等）への漁獲圧の増大による資源の減少が懸念されている。 海水温の上昇等による海藻養殖の不振、磯焼け等、環境の変化による漁獲量の減少が懸念されている。 高齢漁業者の廃業による組合員の減少が、漁協経営の悪化や海藻養殖業等の共同作業を困難にしており担い手の確保が必要とされている。 若手漁業者の減少により青年グループによる活動が後退している。
将来ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> 依存度の高いタチウオやマアナゴ等の資源の有効活用を図り、現状の水揚げ水準を確保する。 フリー配偶体による、高水温耐性など環境の変化に対応した藻類の増殖養殖やシングルシード技術による二枚貝養殖などの無給餌養殖の増殖を図る。 低利用資源の活用や6次産業化を進めて、経営の多角化を図る。 新規就業者の増加を図る。

3 普及指導課題（重点課題は太字）

課題	普及指導課題	指導対象
漁業就業者の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> 新規就業者の着業と定着化の支援 新技術導入・経営改善指導 漁業者グループの活動支援 制度資金の指導 漁業士認定業務 漁業者交流大会の開催 	新規就業者
資源管理及び資源管理型栽培漁業の推進	<ul style="list-style-type: none"> タチウオ、マアナゴ等の資源管理と研究支援 資源管理型漁具の開発 マナマコ・トラフグ・シャコ等の資源管理 種苗放流指導 中間育成指導 アカモク増殖と資源管理と増殖試験 	小底漁業・あなご筒漁業
漁場環境保全の推進	<ul style="list-style-type: none"> 貧酸素水塊調査の支援 貝毒プランクトン調査 	横浜市漁協 横須賀市東部漁協

	<ul style="list-style-type: none"> ・無給餌養殖の推進（海藻、二枚貝） ・造成浅場の二枚貝増殖試験 ・漁海況情報の提供と指導 	
付加価値向上による経営改善	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協直営食堂・販売所の支援 ・ブランドに関する指導 ・低利用資源の加工販売推進 	横浜市漁協 横須賀市東部漁協
経営対策	<ul style="list-style-type: none"> ・無給餌養殖の推進（海藻、二枚貝） ・造成漁場の活用（潮干狩場） ・経営相談に対する対応 ・制度資金の利用への支援 ・漁業従事者の雇用への支援 ・新たな漁獲対象魚種への取組支援 	横浜市漁協 横須賀市東部漁協

普及区	第1普及区第2担当区	担当普及員	秋元 清治
-----	------------	-------	-------

1 管内漁業の概要

地理	三浦市
漁業協同組合 漁業者数	みうら漁協、三和漁協（初声支所、城ヶ島支所、上宮田支所） 1,253名（令和2年12月）
県域漁業者団体等	神奈川県漁業士会、神奈川県小釣漁業連絡協議会、神奈川県しらす船曳網連絡協議会、神奈川県定置網研究会
主要漁業種類及び対象魚種	一本釣り（キンメダイ、さば類）、定置網（マアジ、さば類、カタクチイワシ）、刺網（ヒラメ、イセエビ、サザエ）、みづき（アワビ、サザエ）、潜水（アワビ、サザエ）、海藻養殖（ワカメ、コンブ）等が営まれている。

2 管内漁業の課題と将来ビジョン

管内漁業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・磯焼けによるアワビ資源等の減少。 ・沿岸さば類やキンメダイ等底魚資源の減少。 ・餌いわし類定置の漁獲低迷と老朽化。 ・異常高温、時化、食害等の頻発によるワカメ養殖の不振。 ・高齢化により漁業者が減少する一方で、基幹漁業の不振により、後継者や外部参入者の定着が難しい。
将来ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> ・磯焼け対策を実施することで健全な藻場の維持を図り、アワビ、サザエ等の資源確保に努める。 ・漁連の担い手育成支援事業や県水産課の漁業就業支援事業等を活用して支援することにより、新規漁業就業者の増加を図る。 ・低利用資源（ハマグリ等の二枚貝）の増殖や6次産業化を進めて、経営の多角化を図る。 ・新規就業者の増加を図る。

3 普及指導課題（重点課題は太字）

課題	普及指導課題	指導対象
漁業就業者の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就業者の着業と定着化の支援 ・新技術導入・経営改善指導 ・漁業者グループの活動支援 ・制度資金の指導 ・漁業士認定業務 	新規就業者

	・漁業者交流大会の開催	
資源管理及び資源管理型栽培漁業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・海藻養殖への技術支援 ・アワビ資源管理の推進 ・二枚貝漁業・増養殖(ハマグリ等)の支援 ・キンメダイ資源管理 ・種苗放流指導 ・神奈川県小釣漁業連絡協議会の支援 	一本釣り漁業 刺網漁業 見突き漁業 定置網漁業
漁場環境保全の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・磯焼け対策の推進 ・県産野菜を餌としたムラサキウニ養殖技術開発の支援 ・キンメダイ、さば類等の資源情報の提供 ・漁海況情報の提供と指導 	みうら漁協 三和漁協
付加価値向上による経営改善	<ul style="list-style-type: none"> ・6次化認定申請補助 ・漁協直営食堂・販売所の支援 ・ブランド認定申請補助 ・低利用資源の加工販売推進 	みうら漁協 三和漁協
経営対策	<ul style="list-style-type: none"> ・経営相談に対する対応 ・制度資金の利用への支援 ・漁業従事者の雇用への支援 ・新たな漁獲対象魚種への取組支援 ※新型コロナウイルス感染症対策	みうら漁協 三和漁協

普及区	第1普及区第3担当区	担当普及員	荻野 隆太
-----	------------	-------	-------

1 管内漁業の概要

地理	横須賀市（相模湾側）～鎌倉市
漁業協同組合 漁業者数	長井町漁協、横須賀市大楠漁協、葉山町漁協、小坪漁協、鎌倉漁協、腰越漁協 767名（令和元年11月）、717名（令和2年12月）
県域漁業者団体等	しらす船曳網連絡協議会、漁業士会、小釣漁業連絡協議会
主要漁業種類及び対象魚種	大型・小型定置網（イワシ、アジ、サバ）、まき網（イワシ）、しらす船曳網漁業、刺網（イセエビ・サザエ・カワハギ）、たこかご、一本釣（カツオ）、潜り・見突き（アワビ・サザエ・ナマコ）、海藻養殖（ワカメ・コンブ）、採介藻（ワカメ・アカモク・ヒジキ）などが営まれている。

2 管内漁業の課題と将来ビジョン

管内漁業の課題 県下のワカメ経営体数と売上げ	<p><①漁獲量減少></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海水温上昇や大型魚の餌となるカタクチイワシの減少に伴い定置網、しらす船曳網、刺網、一本釣漁の漁獲量の減少が著しく、季節別に獲れる筈の魚が獲れない。 ・漁獲量が減少する中で生産性を向上させるには、①ブランド化等による販売促進や魚価向上、②未利用・低利用資源の有効活用、③新たな漁獲対象種の開拓等が必要である。 <p><②磯焼け対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化にともなう海水温上昇と藻食性魚類のアイゴや、ガンガゼの増加により、①海藻の減少（磯焼け）によるアワビ・サザエ等の磯根資源の枯渇、②養殖ワカメでは水温上昇に伴う生育不良とアイゴの食害対策等。 ・③アカモク；普及指導を通じて各浜の漁業者の新たな収入源となったが、相模湾側では減少が著しく東京湾の生産者に依存
---------------------------	--

漁協	人数	経営体	100万	150万
横浜市	6	4	400	600
横浜資東部	119	79	7,900	11,850
上宮田	15	9	900	1,350
みうら	44	32	3,200	4,800
長井	34	34	3,400	5,100
大楠	14	14	1,400	2,100
業山	7	7	700	1,050
小坪	10	4	400	600
鎌倉	26	12	1,200	1,800
腰越	17	14	1,400	2,100
江の島	24	6	600	900
茅ヶ崎	29	5	500	750
大磯	6	6	600	900
合計	351	226	22,600	33,900

<③担い手対策>

・高齢化が進む一方、担当区では定置網やしらす漁等の就業を経て漁業外からの新規漁業参入者が多い。①自立経営～生産性向上のための指導・支援、②漁業体験を通じたマッチング、③コロナ下での就業支援など

<④コロナ対策>

・コロナ対策：コロナ下で料理店等が不振で魚の魚価安と消費減退に直結。トラフグやアワビ等の高級魚の魚価安が顕著で、カマスや太刀魚等の家庭でも消費しやすい大衆魚に属する中級魚は比較的安定

将来ビジョン

<①漁獲量減少>

①-①ブランド化 コロナ下でPRは難しいが、長井のブランド品創出(トラフグ、イカ、釜揚げヒジキ等、かながわブランド申請等を支援)

○鎌倉のはまぐりは、直売や料理店メニュー化を通じ新名産品化を目指す

①-②未利用資源の有効活用：小坪でキャベツウニ着手(利用加工部が指導)

①-③新たな漁獲対象種の開拓；増加傾向にある魚種(太刀魚、鱈、はまぐり等)の漁具・漁法指導。→研究も調査船等で新魚種・新漁場開拓

★湘南の海をハマグリ畑に！

各浜の状況に合わせて特採調査～漁具・漁法～資源増殖管理指導
鎌倉では貝桁で1個獲って4個撒く放流積立歩金による更なる増殖を目指す

貝桁で採算ベースの漁がある地区では、部会組織化～資源増殖管理を指導
分布密度監視～漁獲制限と鎌倉漁協で実践している放流積立歩金(親貝漁獲1個に対して4個の稚貝放流 20%程度)を普及・指導

① 生息するが未だ漁獲対象でない地区(腰越・平塚・大磯・茅ヶ崎)
貝桁漁具漁法普及・指導～漁獲対象としての実感～資源管理規定指導

② これから増殖を目指す地区(上宮田・金田・小坪・大楠)
種苗放流を通じた増殖～再生産確認～鋤簾・貝桁による分布密度調査

いずれの地区も2025年貝桁漁業の漁業権化と、新名産品化が目標
★太刀魚曳釣・延縄漁の普及 東京湾口～相模湾側で新たに普及

<②磯焼対策>

②-①海藻の減少(磯焼対策)；予算&人力的に負担の少ない手法を普及～ルーチン化→SUCUBA潜水による徹底したウニ駆除(漁業者+栽培推進部と連携)、アイゴ駆除、しけ後浜打上げ+刺網に掛った海藻スポアバック、アワビ種苗の生残率を高める放流方法を指導、サザエ種苗？ハマグリやカキ等、藻食性でない磯焼に左右されない貝類増養殖普及

②-②養殖ワカメでは水温上昇に伴う生育不良→品種改良(早ワカメと長崎ワカメや高水温地区の天然メカブ交配)、アイゴの食害対策→水槽実験や囲い網設置試験～モデル化、芽胞体形成遅延化による沖出し時期調整等

②-③アカモク 東京湾側のアカモクの資源管理(種付雌株保護の徹底)と口開けや保護区の設定と製品化～販売促進支援による生産性向上(生売り@200×2t=茹刻み製品@3000×130kg)、アカモク養殖の着手等

<③担い手対策>

●外部からの新規参入者

	<p>③-①自立経営～生産性向上のための指導・支援→改善資金活用促進、簡易に取り組める漁具・漁法指導(太刀魚曳釣等)、他地区の新規参入者との視察や交流促進～情報交換</p> <p>●新規就業者を募集する親方</p> <p>③-②漁業体験を通じたマッチング、漁連の担い手育成事業活用促進</p> <p>③-③コロナ下での就業支援 ハローワークや高校・大学等の教育機関、職業訓練校、料理店関係の組合への漁業就業者募集制度や手段構築を検討、県漁連の漁業塾の講師選定支援等</p> <p><④コロナ対策></p> <p>④コロナ対策；漁業者やJAの直売所や地元密着型量販店での販売促進支援、高級魚魚価安対策の検討、コロナ対策事業の周知</p>
--	---

3 普及指導課題（重点課題はゴシック）

課題	普及指導課題	指導対象
漁業就業者の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> ・県の漁業体験を通じた新規就業と定着支援 ・漁業セミナーや漁業体験事業の効率化 ・雇成型漁業(定置網、しらす等)と兼業できる初期投資や経費が少ない漁法や対象種の普及 ・年間対象魚種と経営計画～制度資金活用指導 ・地元以外の他地区の外部参入者との交流促進 ・県漁連の新規就労者募集や担い手支援事業の普及 	新規漁業就業者 新規就業者を募集する漁業者 新規漁業就業希望者
資源管理及び資源管理型栽培漁業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ハマグリ分布状況・再生産調査、漁具・漁法指導、調査結果を踏まえ資源増殖管理指導 ・ハマグリ部会組織化～資源管理計画策定 ・アカモク資源管理と養殖指導 ・生残率を高める種苗放流方法指導 	鎌倉・腰越・小坪・大楠漁協(茅ヶ崎・平塚・上宮田・金田) 全県繁殖地 全県
漁場環境保全の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易的かつ効果的な磯焼対策手法の指導(ウニ駆除は必須) ・効果的なアオリイカ産卵礁設置指導 ・小田和湾の漁業振興 ・ハマグリ生息(増殖)域の底質環境調査と監視 	全域 長井・葉山・小坪 長井・佐島 担当区他
付加価値向上による経営改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド化推進～名産・特産品創出 ・ブランド力を活かしたPR展開(佐島の地だこ) ・地はまぐりの新名産品化 ・地域の料理店・量販店・加工業者等、異業種連携した地魚・未利用魚の付加価値向上 	長井町漁協 横須賀市大楠漁協 鎌倉・腰越他 小坪・長井
経営対策	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策 通信販売励行企画、直売所や地元密着量販店での販売促進支援、コロナ対策事業案内 ・年間対象魚種と経営計画指導 ・季節別対象魚種のB/Cの整理(漁具・燃油等) ・補助事業や制度資金活用指導 ・経営の多角化：季節別単一魚種依存の脱却 ・経費や初期投資の少ない漁具漁法の普及 ・新たな漁獲対象種(ハマグリ、太刀魚等)の普及 	担当区全域

普及区	第二普及区第4担当区	担当普及員	櫻井 繁
-----	------------	-------	------

1 管内漁業の概要

地理	藤沢市～二宮町
漁業協同組合 漁業者数	江の島片瀬漁協、藤沢市漁協、茅ヶ崎市漁協、平塚市漁協、大磯二宮漁協 276名（令和2年12月）
県域漁業者団体等	神奈川県漁業士会、神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会、神奈川県定置漁業研究会
主要漁業種類及び対象魚種	定置網漁（アジ、サバ、イワシ類、カマス類、ブリ類、シイラ）、しらす船びき網（シラス）、刺網（ヒラメ、カマス類、シタビラメ）、地びき網漁、貝桁びき網漁（チョウセンハマグリ）、延縄漁（アマダイ、トラフグ）、アナゴ筒、採介藻（ワカメ、アカモク）、海藻養殖（ワカメ、コンブ）などが営まれている。

2 管内漁業の課題と将来ビジョン

管内漁業の課題	<ul style="list-style-type: none"> 海水温の上昇等によるワカメ等の海藻養殖期間の縮減、漁獲される魚介類の時期の変動等、環境の変化による漁獲量の減少 資源変動にともなう漁獲の不安定化 藤沢周辺海域におけるチョウセンハマグリに関する分布状況の把握と、適切な資源管理や増殖指導 茅ヶ崎市、平塚市及び大磯町での貝桁漁業（チョウセンハマグリ）の現状把握と資源管理、増殖指導 漁獲される魚介類の魚価の低迷 担い手対策に関しては新規就業者の確保とその後の定着 新型コロナウイルス感染拡大に伴う自粛による、更なる魚価低迷。
将来ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> 各地域でブランド認定されている魚介類について、ブランド品としての適切な取り扱いの指導、およびPR強化による魚価の安定・向上を目指す。また、市町や地域の水産関係者、異業種と連携した名産品化や販売促進を図る。 低・未利用資源（イワシ類やサメ・エイ類）の活用や6次産業化を進め、経営の多角化を図る。 漁業者の経営安定につながる新たな取り組みについて支援・指導する。 既存漁業者とのマッチング等で、新規就業者の増加と定着の安定化を図る。 磯焼け対策や漁場保全に関して、漁業者が中心となって藻場の回復や活動を展開し、漁業者が漁場の維持・管理を推進することを図る。

3 普及指導課題（重点課題は太字）

課題	普及指導課題	指導対象
漁業就業者の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> 新規就業支援と就業者の定着支援 担い手育成支援事業に関する情報の提供 漁業者や水産振興団体グループの活動支援 制度資金の指導 漁業士認定業務 	新規就業者 雇用者
資源管理及び資源管理型栽培漁業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 湘南はまぐり（チョウセンハマグリ）の資源管理と増殖促進（小型種苗放流と漁獲制限） ハマグリ分布状況調査による現状把握と資源利用に関する指導 	藤沢市漁協 平塚市・茅ヶ崎市漁協

養殖漁業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・貝類、海藻の養殖・増殖への技術支援 ・種苗放流指導 	担当区漁協
漁場環境保全の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・磯焼け（海藻増殖の減退）への対策の情報提供および指導 ・貝毒プランクトン調査 	担当区漁協
付加価値向上による経営改善	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域でブランド認定されている魚介類の品質管理および販売方法に関する指導 ・未利用魚の名産品化にともなう異業種連携強化と地域活性化への支援 ・低・未利用魚等の有効活用に関する指導 	担当区漁協 茅ヶ崎市漁協
経営対策	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな漁獲対象種等の普及と取組支援 ・経営に関する相談対応 ・制度資金の利用への支援 ・ブランド事業展開の効率化等への相談対応 ※新型コロナウイルス感染症対策	担当区漁協

普及区	第2普及区第5担当区	担当普及員	中川 研
-----	------------	-------	------

1 管内漁業の概要

地理	小田原市～湯河原町
漁業協同組合 漁業者数	小田原市漁協、岩漁協、真鶴町漁協、福浦漁協 246名（令和2年12月）
県域漁業者団体等	神奈川県漁業士会、神奈川県しらす船曳網連絡協議会、神奈川県定置漁業研究会
主要漁業種類及び対象魚種	定置網（さば類、マアジ、ぶり類）、刺網（ヒラメ、イセエビ、アンコウ）、一本釣り（あじ類、ぶり類）、裸もぐり（アワビ、サザエ）、イワガキ養殖等が営まれている。

2 管内漁業の課題と将来ビジョン

管内漁業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大型定置網主体に刺網等が行われ、漁獲物のほとんどが公設消費市場の小田原魚市場に出荷されており、特に多獲性魚種は大漁になると価格の低下が著しくなり、非常に安価で取引される場合が多い。 ・需要に対して供給が不安定なため売り先が制限され、漁獲物の適正な価格形成を難しくしている。 ・魚市場への依存度が高く、6次産業化はほとんど進んでいない。また、練り製品や干物製造等地域の水産加工業による地元産原料の活用が行われているが、割合はまだ少ない。 ・小田原市漁協が整備した水産加工施設において、定置網不漁等による原料供給の不足、販売先の開拓の難航、また、直販施設での販売もコロナ禍で不振が続き、厳しい経営状況にある。 ・H28年以降、定置網漁獲量が右肩下がり減少しており、未利用水産物の活用や蓄養等に取り組み、新たな収益源の検討を行う必要がある。 ・平成30年の台風12号や令和元年の台風19号による定置網の破損等、近年大型化する台風による定置網の被害軽減対策の検討が必要である。 ・近年、台風等による波浪、冬季高水温および植食性生物の影響により藻場の消失が確認され、磯焼けによる磯根資源の減少が裸もぐり漁業者等の水揚げに大きな影響を及ぼしている。（特にアワビ） ・岩漁協の岩ガキ養殖が令和元年6月に区画漁業権を取得し、本格的に養
---------	---

	殖事業化を進めるが、コロナ禍により出荷を延期、今年度に初出荷を予定している。今後、詳細なマーケティング調査や販促活動が必要。
将来ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> ・小田原漁港の水産物や観光客、飲食店等を「集める」機能と交通利便性を活用して地域経済の発展を図っていく。 ・小田原漁港に新たに荷捌き施設と水産物加工・交流促進施設が整備され、休市日の網締めによる供給量増強及び加工原料の確保、交流促進施設での小田原産鮮魚や加工品の販売、新たな流通ルートの構築等への対応強化等により、小田原漁港に水揚げされる水産物の付加価値向上を図る。 ・近年、大型化する台風による定置網の被害を軽減するため、防災技術の向上と、その普及を図る。 ・漁獲物の安定出荷を行うための蓄養や新たな養殖の導入等を図る。 ・未利用資源の活用促進と低価格魚種の価値向上により漁業収益の向上を目指す。 ・磯焼け対策や漁場保全に関して、漁業者が中心となって活動を展開し、自らが使用する漁場の維持・管理を推進する。 ・野菜残差を利用したウニの養殖、イワガキ養殖の事業化、マガキや海藻類等の無給餌養殖試験及び養殖二枚貝の出荷等に必要な貝毒プランクトンの出現状況等の情報発信及び啓発を行う。

3 普及指導課題（重点課題は太字）

課題	普及指導課題	指導対象
漁業就業者の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規就業者の着業と定着化の支援 ・ 新技術導入・経営改善指導 ・ 漁業者グループの活動支援 ・ 制度資金の指導 ・ 漁業士認定業務 	新規就業者
資源管理及び資源管理型栽培漁業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ アワビ、サザエやヒラメ、カサゴ等の適正な種苗放流手法の指導（放流場所までの運搬方法、放流適地の検討） 	刺網漁業者、採貝漁業者
漁場環境保全の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貝毒プランクトン調査 ・ 魚礁設置・管理の指導、造成漁場の状況に関する情報提供 ・ 漁海況情報の提供と指導 ・ 無給餌養殖の推進（二枚貝） ・ 磯焼け対策の推進（藻場造成・磯焼け原因生物の駆除） 	小田原市漁協 岩漁協 真鶴町漁協 福浦漁協
付加価値向上による経営改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小田原漁港整備計画に基づく各種事業への支援・指導（蓄養、加工、販売等） ・ 漁協直営食堂・販売所の支援 ・ ブランド化支援 ・ 低利用資源の利用促進（ムラサキウニの畜養・出荷試験、アイゴ等の付加価値販売試験） 	小田原市漁協 岩漁協 真鶴町漁協 福浦漁協
経営対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定置網の安全対策促進・操業合理化等の支援・指導 ・ 無給餌養殖への技術支援・指導（二枚貝） ・ 地魚を活用した加工品開発、販売試験等の支援・指導 	小田原市漁協 岩漁協 真鶴町漁協 福浦漁協 県定置網研究会

	<ul style="list-style-type: none"> ・蓄養出荷への技術支援・指導 ・海藻類の利用促進（養殖含む） <p>※新型コロナウイルス感染症対策</p>	
--	---	--

V 漁業就業支援事業

県のコロナ感染症対策方針を受け、新規就業者の確保、就業後の自立支援を目的としている次の事業は原則中止とする。ただし、県のコロナ感染症対策方針が変更となった場合は開催の可否を再検討する。

1 漁業セミナー

漁業就業希望者を対象としたセミナーにおいて、若手漁業者とベテラン漁業者に講師を依頼し、発表を支援する。

2 漁業体験研修

漁業就業希望者を対象とした漁業体験研修を開催する。

VI 沿岸水産資源再生技術開発事業

1 磯焼け対策事業

- ・フリー配偶体技術によるワカメ種糸のバックアップ体制を確立する。
- ・他県産優良品種と本県産ワカメの交配等により、高水温に耐えるワカメ、早生ワカメ、より美味しいワカメを創出し、養殖業者に普及する。

VIII 適応策調査研究事業

1 沿岸資源管理・増養殖推進事業

他県で養殖実績のある種の養殖試験や未利用の水面の活用により、二枚貝類の養殖技術を広め生産量の拡大を図る。また、漁業者が取り組む二枚貝類の増殖試験の技術指導を行い、二枚貝類の増殖による生産量の拡大を図る。

県民に安全・安心な二枚貝を提供できるよう、貝毒原因プランクトンの出現状況の調査と貝毒検査を実施し、関係漁協に周知するとともに、HP等で県民に情報提供する。

- ・沖合水面を活用する二枚貝養殖試験並びに新しい養殖対象種の養殖試験を実施する漁業者に対し、技術的支援を実施する。
- ・二枚貝増殖試験を実施する漁業者に対し技術的支援を実施する。
- ・貝毒プランクトン調査を月1回10カ所で実施し、結果を関係漁協等に周知する（横浜市中区本牧漁港、横浜市金沢区柴漁港、横須賀市田浦町深浦漁港、横須賀市平成港、横須賀市走水伊勢町海岸、横須賀市浦賀、藤沢市片瀬漁港、茅ヶ崎市茅ヶ崎漁港、平塚市平塚新港、足柄下郡真鶴町岩漁港）。
- ・貝毒検査を10定点（トリガイ：横浜市中区本牧漁港、ホタテガイ：横浜市金沢区柴漁港、マガキ：横須賀市〔田浦、平成港、伊勢町、浦賀〕、アサリ：横須賀市田浦、伊勢町、チョウセンハマグリ：藤沢市、イワガキ：足柄下郡真鶴町岩漁港）で実施する。検査は民間検査機関へ分析委託する。監視強化値を超えた場合等に備え、モニタリングを実施する。
(協力機関：水産研究・教育機構 中央水産研究所)

IX ムラサキウニ養殖技術開発事業

磯焼けの原因生物であるムラサキウニについて県産野菜を餌とする養殖技術の開発し、これまで商品価値の低いムラサキウニを地域の特産品として商品化することを目指す。

適正な飼育技術や事業規模の推計等を検討するため、事業化に向けた養殖実証試験を漁業者とともに実施し、事業化の支援を行う。

※ 新型コロナウイルス感染症対策

助成金、給付金等の情報提供を図るとともに、ネット販売指導を促進するための指導を行う。併せて、健康増進に役立つ水産物の特徴等を情報提供し、地魚の販売促進を図る。